



ガレージに納められたのは'08年式ボルシェ・ケイマンと'63年式タイプ1。タイプ1はクーラー付きで、夏でも乗れる快適な仕様。

## ヤシの木に囲まれた場所に建設された アメリカン・ガレージの世界。

埼玉県 富田邸 株式会社ガレージライフ

広大な敷地に描かれたアメリカンハウスとガレージ。

青空の下に広がるヤシの木に囲まれ、

そこには今まで見たことがないような光景が広がっていた。

そしてスチールガレージがアメリカの世界を象徴している。

Photo/Masatake-ISHIKO(石河正武) Text/Jun-ISHIHARA(石原 淳)

# 03

GARAGE LIFE EXAMPLE

埼玉県深谷市。花園インターを降りると植物を商売としている園芸を営む地域が広がっている。そのなかでも異彩を放っているのが富田和也さんが営む『ザルゲートガーデン』。父親が植物の商売を営んできたこともあり、若くして独立した。それが「ヤシの木」を専門とした造園業。関東近郊に出向いて、ヤシの木の販売から施工までを行なっている。約3000坪の敷地には約150本のヤシの木が植えられて、育てられている。そのため、今から約4年前にサイディ

ング材を使ったアメリカンな事務所を建て、そしてその2年後に『ガレージライフ』が販売しているアメリカン・ガレージが建てられた。アメリカンスタイルの事務所にはこのスチールガレージしかないと思決だったそう。

しかし、シャッターを取り付けて引き渡しの日には悲劇が起きる。2014年2月14日。関東地方は天災ともいえる大雪に見舞われる。しかも関東北部では想像だにしない約80cmの積雪があり、多くのカー

ポートが倒れてクルマが下敷きになったことは記憶に新しい。富田さんが建てたばかりのガレージも積雪対応ではなかったため、雪の重みに負けてしまった。もちろん、次の日には施工をした『ガレージライフ』阿部代表が現場に駆け付けたが、ガレージは元に戻らない事態になっていた。これがきっかけでアメリカン・ガレージの改良がおこなわれた。Vフレームのジョイントをより深く接合して、積雪に対応できるようにと強固なものにした。そして積雪1mでも耐えら





れる構造計算をしVフレームを肉厚とし、新たに富田さんのもとに届けられることになった。

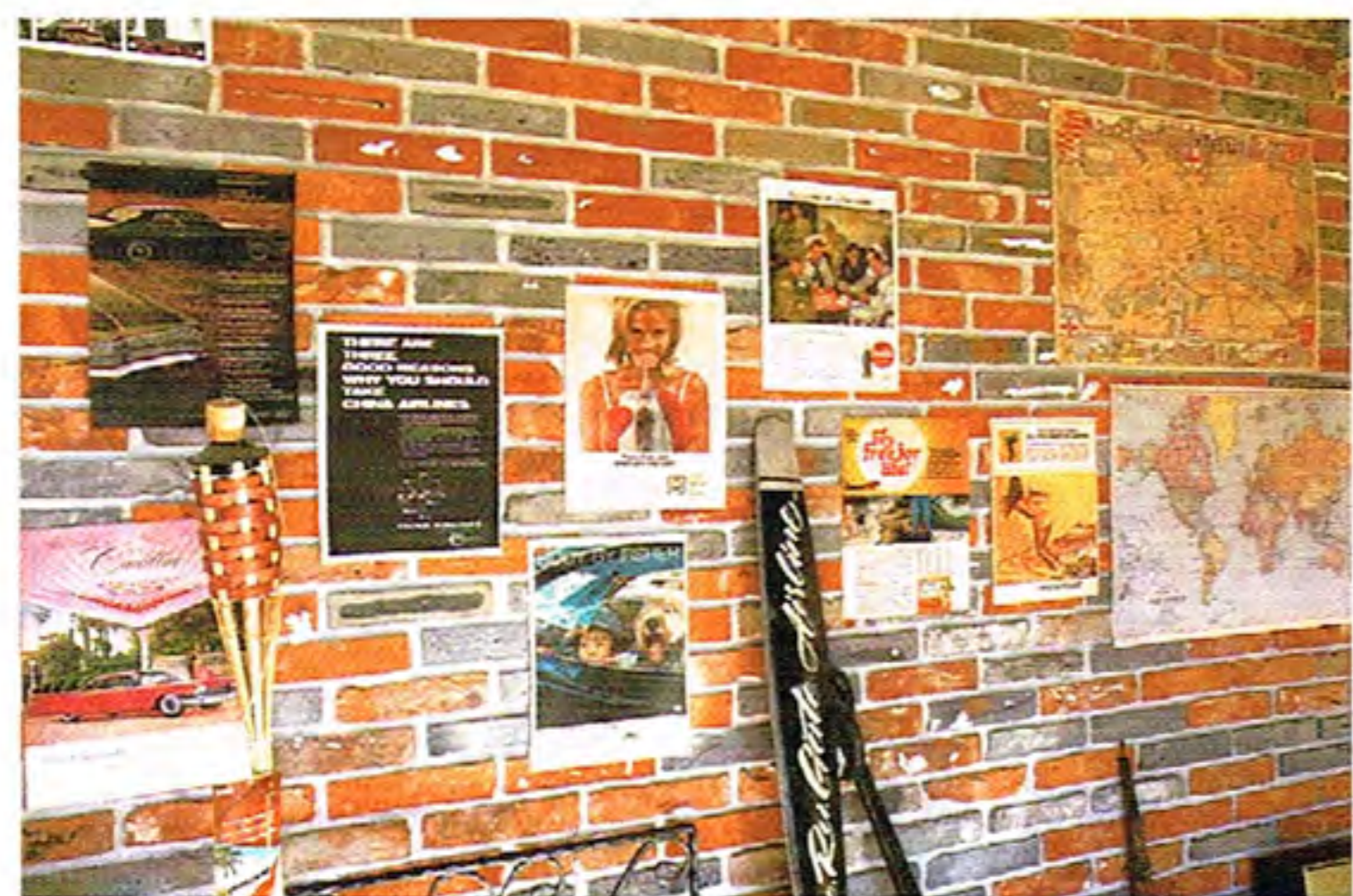
まさに悲劇から1年後、晴れて本誌の取材を受けることになった。普段はガレージにはヤシの木を運ぶためのユンボやトラクターが入るが、撮影のために富田さんが所有するボルシェとVWが入られた。シャッターには「三和シャッター」製の電動が取り付けられた。アメリカン・ガレージは敷地に合わせてサイズが1cm単位でオーダーができるほか、パネルは13色から選ぶことができるので、屋根材との組み合わせでなんと144パターンから選ぶことが可能だ。しかも、今回の悲劇から改良されたVフレームは強靱

# 03

GARAGE LIFE EXAMPLE  
A RESIDENCE OF TOMITA

## 緑あふれる環境に、 ガレージと事務所が建てられた。

こちらにも畑の肥料が入れられたガレージ、ミニ・ストレージ。アメリカンスタイルの事務所に合わせたスタイルでもある。



左／こちらは職人の手によって貼られたブリックレンガ。昔のADをうまくディスプレイとして使っている。  
右／富田代表が先頭となって事務所を造りあげる。航空機のポスターを額装、その裏側からライティングするなど細かなディテールまでこだわる。

「ザルゲートガーデン」の代表・富田さんとスタッフ、「ガレージライフ」阿部代表がガレージの設置について振り返る。



# 03

GARAGE LIFE EXAMPLE  
A RESIDENCE OF TOMITA

## PLANNING DATA & MATERIALS

植物を扱う事務所とは差別化した、  
提案型のガーデンオフィス。



事務所の玄関にディスプレイされたアンティークのアイテム。代表の富田さんの気持ちが現れている。

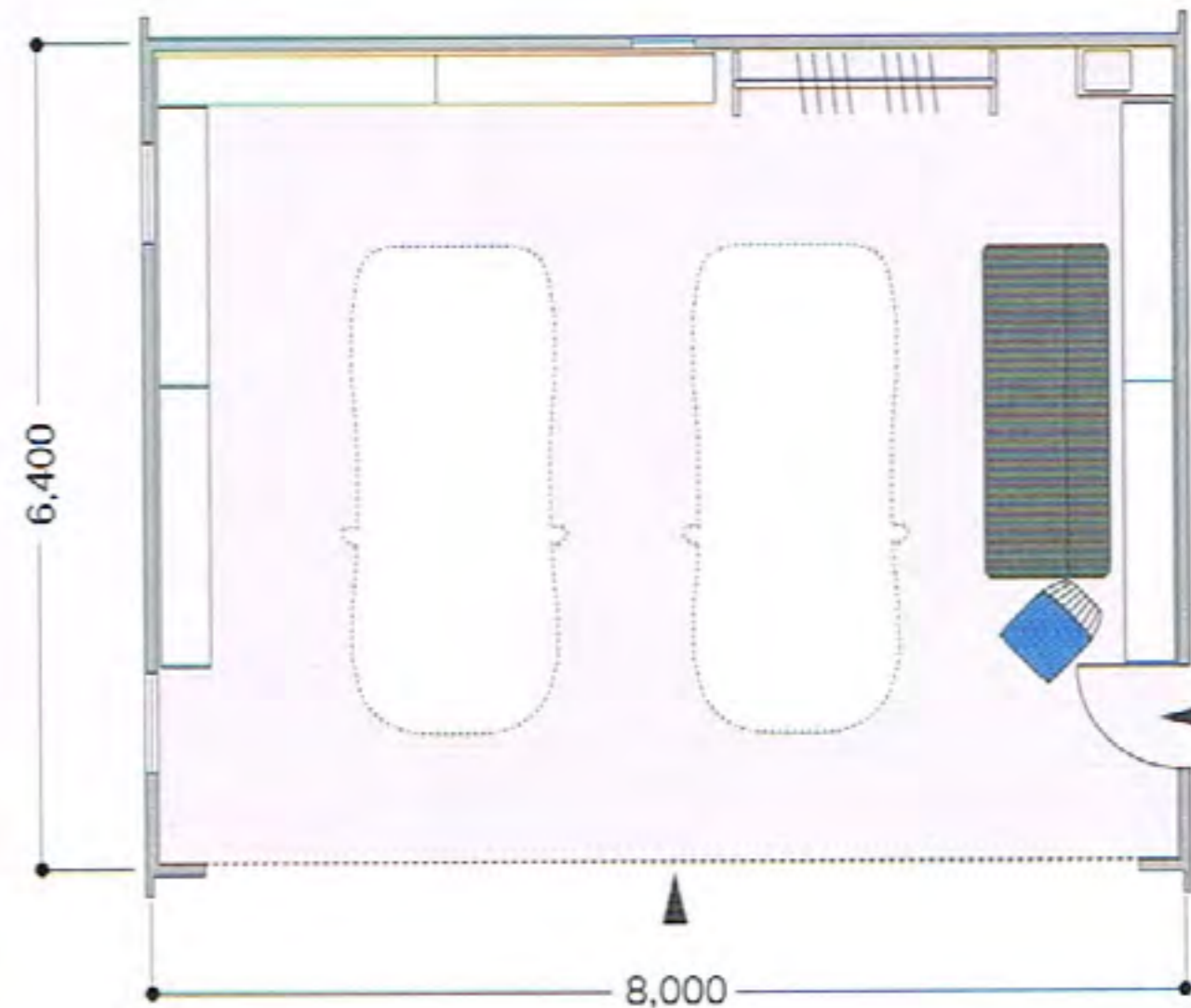
になり、メーカーとしてもかなり自信がある。普通であれば、このような悲劇は隠したいところだが、雑誌に正直に書いて改良していることを伝えたいと阿部代表は語る。

さて、ガレージには現在2台の愛車が入るが、富田さんの手によって壁面は強化され、棚には植物園の道具と、資材が収まっている。そしてアメリカンな事務所は、雪の日に作業ができなかったため木材によりDIYでスタッフで施工、塗ってしまったという空間で、お客様と打合せするスペースが用意されている。子どもがきても遊べるスペースを用意するなど、今までの造園屋さんとは異質な事務所を構えている。アメリカンな空間で打合せをして、気に入ったヤシの木を選んでもらい、将来のマイホームのシンボルとなるツリーを提供するのが『ザルゲートガーデン』のポリシー。育てるには適した気温と、日照時間などがあるのでプロに聞いてもらいたい。関東から南が適しているそうだが、ヤシの木も種類が豊富で、富田さんは現在、5種類を所有、生育させている。

敷地に建てられたガレージは毎日使うための倉庫も兼ねているので、そのガレージの品質が重要という。改良されたアメリカン・ガレージは富田さんにとって何ひとつ不足ない仕上がりになっているという。Vフレームのジョイント、そして構造が改良されたアメリカン・ガレージは、オーダーに応じて全国22か所の販売代理店により建てるのが可能だ。阿部社長の真摯な姿勢には、この商品アメリカン・ガレージに対する自信がうかがえる。



広大な敷地のなかに建てられたアメリカン・スチールガレージ。株式会社「ガレージライフ」の手によって建てられた。

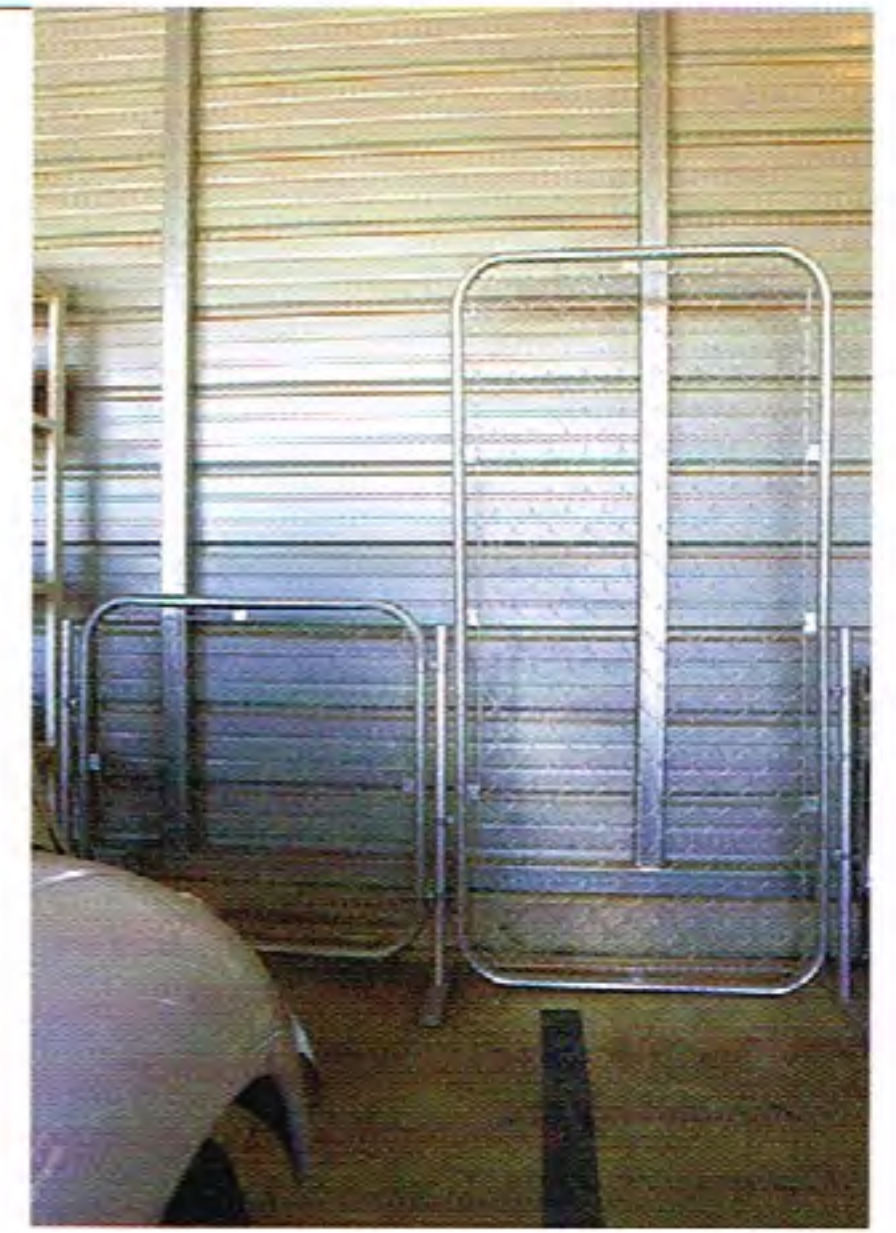




ガレージに入れられた照明は富田代表が自ら選んだもの。ガレージのテイストにあったものをチョイスしている。



ガレージに農耕機を入れ、接触しても穴が開かないようにと補強もかねてパネル棚を設置。ガレージのスタイルに合わせて、かつアクセントにもなっている。



上／アメリカ製のフェンスも「ガレージライフ」で購入したアイテムの1つ。クルマと農耕機の接触を防止する役割も果たす。中／スチール製の棚をペイントして配置。バイク用のヘルメットのほか、普段は広大なヤシの木を整備するための器具が納められる。そして水まわりも完備。下／照明のスイッチや、配線などオーナーの好みにより替えることができるのがオーナーの楽しみ。



ガーデンの施工や、木の販売の打合せが行われる「ザルゲートガーデン」の事務所。木の香りが漂う、安らぎのスペース。



「三和シャッター」製電動スチールシャッターを標準で入れることができるアメリカン・ガレージ。最大の大きさ8mのシャッターが入る。

**P** PLANNING DATA  
敷地面積●約3000坪  
ガレージ面積●約50㎡  
構造●スチール  
設計●ガレージライフ  
竣工●2015年2月

**O** OWNER'S CHECK  
■一番気に入っているところは？  
日本デザインの窓とは異なり、アメリカ製の上下させる窓が気に入っています。  
■ちょっと失敗したところは？  
ガレージのサイドにドアを1枚設けましたが、もう1枚入れておけばもっと便利だったかもと考えるときがあります。  
■次の夢はなんですか？  
内装をもっと時間をかけて仕上げたい。

**C** COMMENT FROM A BUILDER  
株式会社ガレージライフ  
阿部直之さん

想定外の積雪より富田代表には迷惑をかけたが、Vフレームの新たな開発により新バージョンの導入に至りました。これからも安全対策を万全として、長いお付き合いができるガレージを建築していこうと考えています。毎日、使っているガレージは生活の質を上げるうえでも重要になるでしょう。

〒981-3312  
宮城県黒川郡富谷町との木2丁目6-16  
phone: 022-348-0770  
www.garagelife.info/

取材先●ザルゲートガーデン  
所在地：埼玉県深谷市武蔵野3895  
phone: 048-584-3746  
FAX: 048-584-0665  
営業時間：am10:00～pm5:00  
http://therugate.com/



事務所から見える光景は、一面に広がる樹齢30年のヤシの木たち。関東であれば販売、施工を行うという「ザルゲートガーデン」だ。